



海洋ごみ問題の周知と改善行動につなげる施策を実施！

九十九里浜に代表される日本屈指の海洋レジャースポットを持つ千葉県。レジャーのみならず、漁業を中心とした経済活動の面からも生活と海は切り離せない。海洋ごみ問題は、それを脅かす切実な問題にも関わらず、県民への周知や理解・行動が進んでいない。本プロジェクトでは「周知・理解のために」大規模なイベントと連動、「実際に行動してもらうために」拾い箱や一斉ごみ拾いを実施、更に「未来へつなぐために」若い世代への周知・啓蒙活動と、3本柱でこの海洋ごみ問題を改善していくための展開を進めている。

2024年度 実施状況について

大型イベント連携事業（幕張メッセ“どきどき”フリーマーケット、超からだのひみつ大冒険）



概要 両イベントにて主にファミリー世代を中心にワークショップやデジタル紙芝居を通じて、海洋ごみ問題について楽しく学んでもらう機会を創出。

目的 フリマ：3Rの周知と実践の為、4万個のエコ素材食器で食事提供。
からだのひみつ：海洋ごみが人体にあたる影響を学ぶ

アピールポイント リサイクル意識の高い来場者、からだの仕組みを遊びながら学ぶ来場者に問題提起をする。

効果 フリマでは、4万食分で約800キロのプラごみ削減と合わせて4万人へのアプローチを実現。超からだのひみつ大冒険では、海洋ごみを摂取した海の生き物からの食物連鎖が人間にかえってくる可能性をお子様中心にレクチャー。多くの関心を得た。

拾い箱事業（サーフショップ、学校連携）



概要 県内5ヶ所のサーフショップ、小中高等学校に拾い箱を設置

目的 少年期からのごみ拾いの習慣化と拾い箱の認知拡大

アピールポイント 拾い箱が定着してきて周辺ごみの減少や参加者の増加へ

効果 サーフショップ事業では、過去実績の積み重ねもあり認知、利用が増加傾向。海岸以外に店舗周辺や駐車場など、街ごみの減少もみられ、浸透してきている。学校連携では、課外活動（部活動）の一環として、通学路、学校周辺の清掃活動実施のきっかけとなり、清掃活動の習慣化が見られた。

清掃活動



ごみ拾い参加人数 約10,000人以上

箇所数 約40箇所

アピールポイント 千葉県内29ヶ所で一斉清掃を行った「日本まるごとごみ拾い」。ラジオ放送を通じて参加者が他地区参加者と連携が取れるような仕組みづくりや、清掃活動現場では、楽しみながらごみ拾いができるように、ライブなどのイベントを実施。

メディア露出



メディア露出本数 約55本

アピールポイント 各活動のリリースでwebメディアに掲載された他、海野常務ご出演のBAYFM特番や千葉テレビでの拾い箱の取材なども放送。



2024年度の課題とこれからの展望

拾い箱事業は各地で定着してきていることで、清掃活動参加は活発に行われている。今年度新たに実施した学校連携事業では、予想外の問題が出たものの、部活動での利用など横展開が可能な結果も見られた。活動を通じて収集した現場の生の声を今後の活動に生かして行きたい。海洋ごみ問題を家族や地域、仲間などと共に認識を深め、実際に改善行動に移してもらうことを目標として活動を進めたいと思う。楽しく（清掃）活動できる環境づくりも大変重要だと思われる。